

## 福井県の教育行政の取組みについて視察研修

福井大学・教職大学院 平成27年11月16～17日

平成27年11月16日～17日

福井大学・教職大学院の  
松木教授より福井県の教育  
行政について研修を受けた。  
教職大学院は、21世紀の学  
校教育を担う教員の専門的  
力量の開発を目的に開設さ  
れ、「学校の課題を解決し、  
高い教師力をを目指し、学校  
リーダーを育てられる大

学院」とのことである。

福井県は、全国学力テストで常に上位の成績である。これは福井県人の気質が大きく影響しており、先生方が裏面目で素直で癖が無く、ホームで活動することが多い。そして宿題についても、このフォロー一時間も保証されている仕組みがあるとのことである。

なお、福井県は3世代同居が多く、おじいちゃん・おばあちゃんの力で家庭学習の習慣を身に付けさせているとのことである。

また、福井県の教育行政には教科の継持制度があり、たとえば教科担任が中の3まで受け持つ、

きめ細かな指導を可能とする仕組みもあるとのことで、ある。これが全国学力テストでの上位成績を保つてゐる理由のことである。

しかし、21世紀のグローバル時代が求める学力は、知識詰込み型の教育だけでは駄目で、能動的な教育として「知識を使って、どのような問題をも解決していく力」を身に付け「グローバル時代を生き抜く力」を付ける問題解決型グループ学習がアクティブラーニングといわれる教育であり、今後必要のことである。

不登校の問題は、辛い事があると休んでもいいと学んでしまうと、何かあつた時に、そこから不登校になってしまいます。1年生の時に休み癖を付けないことが大事のことである。



義塗也成活生之義負恨炎

化議員懇談會

**新たな取り組みに向けて**  
小諸市・軽井沢町・御代  
田町の浅間山麓の議員の集  
まりである浅麓地域活性化  
議員懇談会が、27年10月23  
日に軽井沢町で開催された。  
懇談会の内容は講演会で、  
講師は早稲田大学マニユフ  
エスト研究所事務局長の中  
村健氏で、徳島県川島町で  
町長を2期務め、初当選時  
は27歳で全国最年少の首長  
でもあった。

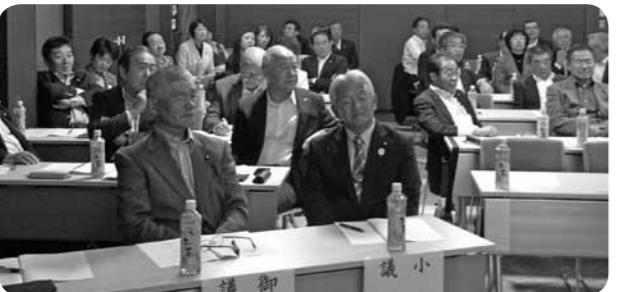
演題は、「盛り上がる議  
会報告会はどうが違うの  
か?」だった。講演会は、  
一方的に話を聴いている場  
合が多いが、今回は参加し  
た議員への質問などを交え、  
また町長就任後の首長側と  
議会・議員側のやりとりの

研究会のアンケート結果では、自治体の48%が報告会等を開催し、増加傾向にあるとのことであった。

一方で参加者数をみると20人以下の所が多く、人集めを含め、運営の在り方、方法など問題や課題が浮き彫りになってきておりこれが指摘された。

例として、①決まつたことを報告するだけでは話し合いや意見交換にならないこと。②会場で議員と住民の方が相対した形では語り合つたりする雰囲気になりないなど挙げられた。

当町でも開催に向けて検



丁子義

庄軒研修会

## 新たな取り組みに向けて

小諸市・軽井沢町・御代  
田町の浅間山麓の議員の集  
まりである浅麓地域活性化  
議員懇談会が、27年10月23  
日に軽井沢町で開催された。  
島田市の方は構成されて、

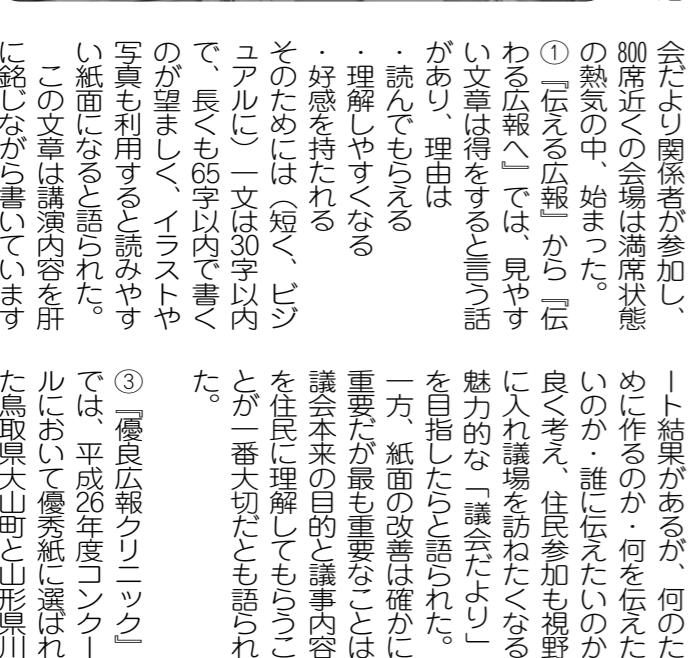
講師は早稲田大学マニユフ  
エスト研究所事務局長の中  
村健氏で、徳島県川島町で  
町長を2期務め、初当選時  
は27歳で全国最年少の首長  
でもあった。

実情話をされ、面白い参考になつた。

近年、議会改革の一環として、市町村議会・議員が「住民への議会報告会」を開催するようになつてきました。議員が直接住民と活動報告をするとともに声を聴くことで行政に反映させより開かれた行政にすることを目的としている。

研究所のアンケート結果では、自治体の48%が報告会等を開催し、増加傾向にあるとのことであった。

一方で参加者数みると20人以下の所が多く、人集めを含め、運営の在り方、方法など問題や課題が浮き彫りになってきてる感じが指摘された。



100

①道の駅織姫の里なかのと  
中能登町は平成17年3月  
に鳥屋町、鹿島町、鹿西町  
が合併し誕生した町で、ほ  
ぼ半島の中央部に位置し隣  
は七尾市で、金沢や富山か  
らも50kmと好位置にあり、  
人口は1万8千、世帯数6  
千、面積89km<sup>2</sup>で、規模は御  
代田町に近く感じた。  
「織姫の里なかと」は  
施設面積1万8千m<sup>2</sup>・総事  
業費12億3千万円で平成26  
年4月にオープンしたが、  
整備には、あらゆる交付金  
や補助金を活用し、約6億  
円を総務省や国土交通省か  
ら受け、町が整備した。  
目的は、平成19年に発生  
した能登半島地震の教訓か  
ら防災拠点機能を持つた公  
共施設とし、町内を廻る「  
ミニユーティバスターーミナル」  
としての機能も持たせた複  
合施設で、国道59号線沿い  
にある。

をを目指しているが、冬期間は県内外から仕入れした作物を販売しており、その解消が課題であると話されていた。

課題解消のため町とJAは、雪に強い小型ハウス建設に補助金を出し、能登白ネギや金糸瓜・小菊カボチャ特に栄養豊かなカラーワ野菜に力を入れている。



## 道の駅と音川加工を視察

石川県鹿島郡中能登町 富山県富山市

平成27年11月5～6日

①道の駅織姫の里なかのと  
中能登町は平成17年3月  
に鳥屋町・鹿島町・鹿西町  
が合併して誕生した町で、ほ  
ぼ半島の中央部に位置し隣  
は七尾市で、金沢や富山か  
らも50kmと好位置にあり、  
人口は1万8千、世帯数6  
千、面積89km<sup>2</sup>で、規模は御  
代田町に近いと感じた。  
「織姫の里なかと」は  
施設面積1万8千m<sup>2</sup>・総事  
業費12億3千万円で平成26  
年4月にオープンしたが、  
整備には、あらゆる交付金  
や補助金を活用し、約6億  
円を総務省や国土交通省か  
ら受け、町が整備した。  
目的は、平成19年に発生  
した能登半島地震の教訓か  
ら防災拠点機能を持つた公  
共施設とし、町内を廻るコ  
ミュニティバスター・ミニナル  
としての機能も持たせた複  
合施設で、国道159号線沿い  
にある。

運営はJ-TAを指定管理者  
とし、運営方針は地元の方  
が多く利用する地産地消型

①『伝える広報』から『伝  
わる広報へ』  
②『思わず手にとつて読み  
たくなる広報へ』  
③『優良広報クリーチク』  
の内容で開催された。

研修会は

- ・読みでもりえる
- ・理解しやすくなる
- ・好感を持たれる

そのためには（短く、ビジ  
ュアルに）一文は30字以内  
で、長くも65字以内で書く  
のが望ましく、イラストや  
写真も利用すると読みやす  
い紙面になると語られた。

この文章は講演内容を肝  
に銘じながら書いています

を自指しているが、冬期間は県内外から仕入れした作物を販売しており、その解消が課題であると話されたいた。

